

クラス番号	633	担当教員名	藤田 哲也
テーマ	児童養護施設の実践をもとに“つながる”意味を考える		
著書・論文 研究課題等	<p><b>研究課題：</b>子どもの目から見た児童養護施設の生活に関する研究，児童養護施設の職場環境</p> <p><b>主著：</b>『子どもと福祉 vol.3』(明石書店)，『児童養護施設で暮らす発達障害の子どもたち』(福村出版)『しあわせな明日を信じて2』～乳児院・児童養護施設の子どもの3年後の便り～(福村出版)</p> <p>『子どもの社会的養護内容』(福村出版)『子どもと福祉 vol.8 生い立ちの整理に取り組む意味とは』(明石書店)</p> <p><b>主論文：</b>「児童養護施設の職員が長く働き続けられるための条件—勤続職員と退職職員への同時調査からの視点—」『福祉研究No.103』2011年12月，「児童養護施設での生活経験がある者から見た“よい職員”とは—入所児童と退所児童へのアンケート調査の結果から—」『金城学院論集第8巻第2号』2012年3月,など</p>		

## ゼミナール概要

キーワード： 社会的養護 児童養護施設 子ども虐待 最善の利益 児童相談所

### <目的>

社会的養護の現状や課題から『子どもの幸せ』を追求するために、ゼミ生一人ひとりが自分なりの視点を持ち、課題を克服するために自ら考え、実践できる力が身についていることを目的とします。

### <内容>

児童養護施設に入所してくる子どもの多くは虐待を受けています。そこで支援する職員は、子どものケアだけでなく、親(家族)への支援も求められています。それらの支援には施設だけで取り組むには限界があり、児童相談所や市町村、教育機関や医療機関等様々な分野との連携も必要となるでしょう。そのような状況をふまえ、以下の④点を中心に取り組んでいきたいと思ひます。

(1). 課題を的確に捉え、施設で生活する子どもの『最善の利益』を守るということは、どのようなことなのか、何が必要なのかを事例や資料、文献などを通して検討していくことができればと思ひます。また、制度・政策の視点、子どもの権利擁護の視点、安心・安全な生活保障の視点、家族や親への視点、地域関係機関との連携の視点、職員同士のつながりの視点等、子どもを取り巻くあらゆる環境も視野にいれながら、学びを深めていければと思ひています。

(2). 学内でのゼミ以外に、全国児童養護問題研究会全国大会や日本福祉大学社会福祉学会等に参加し、施設職員や施設生活経験者、他大学の学生との学習や交流活動も考えています。その他、様々なゼミの取り組みなども学生主体で企画・実施したいと思ひます。

(3). 施設見学や施設生活経験者との交流を含めたフィールドワークをとおして、関係機関との連携について体験的に学べる機会を持ちたいと思ひます。

(4). このゼミを志望する学生は、エントリーシートに①(社会的養護に関係する)興味・関心のあるテーマとその概要、②卒業後に考えている職業(現段階で)、③ゼミに対しての意気込みを記載してください。テキスト、参考書籍に関しては、後日お知らせします。

### <方法と授業計画>

- 3年生の前期は、社会的養護に関する文献や資料を読み、基礎知識の習得を目指します。後期は、施設見学や学習会の機会を多く持ち興味や関心、知識などを深めていきながら、事例検討を行う事で対応力や実践力を身に付けます。
- 4年生では今まで学んだ事を基礎とし、それぞれが研究テーマを設定し、卒業論文執筆に取り組みます。ゼミの時間に中間報告会を実施し、話し合いの中で気づきを深め完成に向けて取り組みます。

## 担当教員からのメッセージ



- ①このゼミは一人ひとりがテーマを持ち、意欲的に学び合う場になればと思ひています。学生が主体的な運営をしながら、仲間と共に高め合っていけるゼミでありたいと思ひます。
- ②私自身が児童養護施設で働いていますので、児童福祉施設で働くことを強く希望している学生を歓迎します。
- ③大学生活で『楽しかった！自分自身成長した！』と実感できるようなゼミにしていきたいと思ひます。よろしくお願ひします。